

2016 年度 自己点検・評価委員会 活動記録

4 月

第 1 回目の委員会で、今年度の委員会としての目標を設定する。

具体的には、中央教育審議会の答申（学生が主体的に考え、一生涯学んでいける能力を身に着けることが出来る環境作り）や小口学長の考え（学生が満足する教育の提供、卒業後に社会で活躍する人材の育成）を踏まえ、ハード面・ソフト面の点検と改善への提言を行うこととした。

例として、

- ①施設（教室、食堂、一般学生へのアスレチック施設、研究室、職員の仕事場 etc.及びこれらの維持・管理）
- ②環境（キャンパスの美化、教育現場での受動喫煙 etc.）
- ③組織（教職員の人数、配置の適正化、学部、学科、部署のスクラップ&ビルド etc.） SD（Staff Development）の必要性
- ④「学生サービスの質的向上」を目指しての自己点検・評価（教員の講義内容と質、担任としての役割などへの点検・評価）
- ⑤職員の仕事負担量、学生への対応などへの点検・評価

●P D C A（計画、実行、評価、行動・改善）サイクルを確立し、自己点検・評価委員会が改善すべきことの優先順位を決めて調査し、経営陣（学長、副学長等）に勧告し、必要に応じて経営陣が各委員会、各部署へ改善の指示を行う。その後、改善点を調査・評価する。新たな部署の創設及び専属職員が必要なケースも含む。また、I R 活用委員会との連携 → 必要なデータを相互に共有し、活用する。

長期目標として、「小規模な私立大学の継続的な発展」を、中期目標としては、「平成 33 年度次期認証評価の合格」を掲げた。

5 月

学長、副学長、学部長などから構成される経営会議（江戸川大学の最高意思決定機関）に、自己点検・評価委員会の基本方針を説明し、意見交換を行う。

（ディプロマポリシーを明確化することにより、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが確立できる。リベラルアーツの大学の特色を活かした教育、必修科目の増加など）

上記、2016 年度の委員会の活動内容を（財）日本高等教育評価機構（2015 年度版）の大学評価基準項目を参考にし、各委員に点検項目を割り振ることとする。

基準1 使命・目的（使命・目的、教育目的）

使命・目的、教育目的の透明性、適切性、有効性

基準2 学修と教授（学生受け入れ、教育内容・方法、学修及び授業の支援、学修評価、教員配置等）

2-1 学生の受け入れ

2-2 教育課程及び教授方法

2-3 学修及び授業の支援

2-4 単位認定、卒業・修了認定等

2-5 キャリアガイダンス

2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

2-7 学生サービス

2-8 教員の配置・職能開発等

2-9 教育環境の整備

基準3 経営・管理と財務（経営の規律、理事会、ガバナンス、執行体制、財務基盤と収支、会計）

3-1 経営の規律と誠実性

3-2 理事会の機能

3-3 大学の意思決定仕組み及びリーダーシップ

3-4 コミュニケーションとガバナンス

3-5 業務執行体制の機能性

3-6 財務基盤と収支

3-7 会計

基準4 自己点検・評価（自己点検・評価の適切性、誠実性、有効性）

自己点検・評価の適切性、誠実性、有効性

以後、開催された委員会で、それぞれの項目に関して、各委員から江戸川大学において達成されているもの、未対応のものなどが指摘され、未対応のものに関して達成するためへの意見交換が繰り返された。

3月

卒業生アンケートの実施

毎年、卒業式の当日に、江戸川大学での大学生活を振り返り、卒業生によるアンケート調査を実施している。評価項目は、「学習」、「学生生活」、「施設・設備」、「総合評価」の4つ

に大別され、総合評価を除き、項目ごとの具体的な設問がされている。最後に、「自由記載欄」が設けられている。アンケート結果は、学長に提示されたあと、教授会で発表される。

今年度から卒業生の意見を直接聞くことが出来る「自由記載欄」を学長の意向を取り入れ、項目ごとに設け、卒業生の意見を多く取り入れられようになった。

3月

経営会議に江戸川大学における改善すべき点を指摘した答申「小規模私立大学における教育改革：グローバル化、多様化する社会で生き抜ける人材育成に向けての質保証」を提出する。これは、(財)日本高等教育評価機構の大学評価基準項目を参考に作成されたものである。